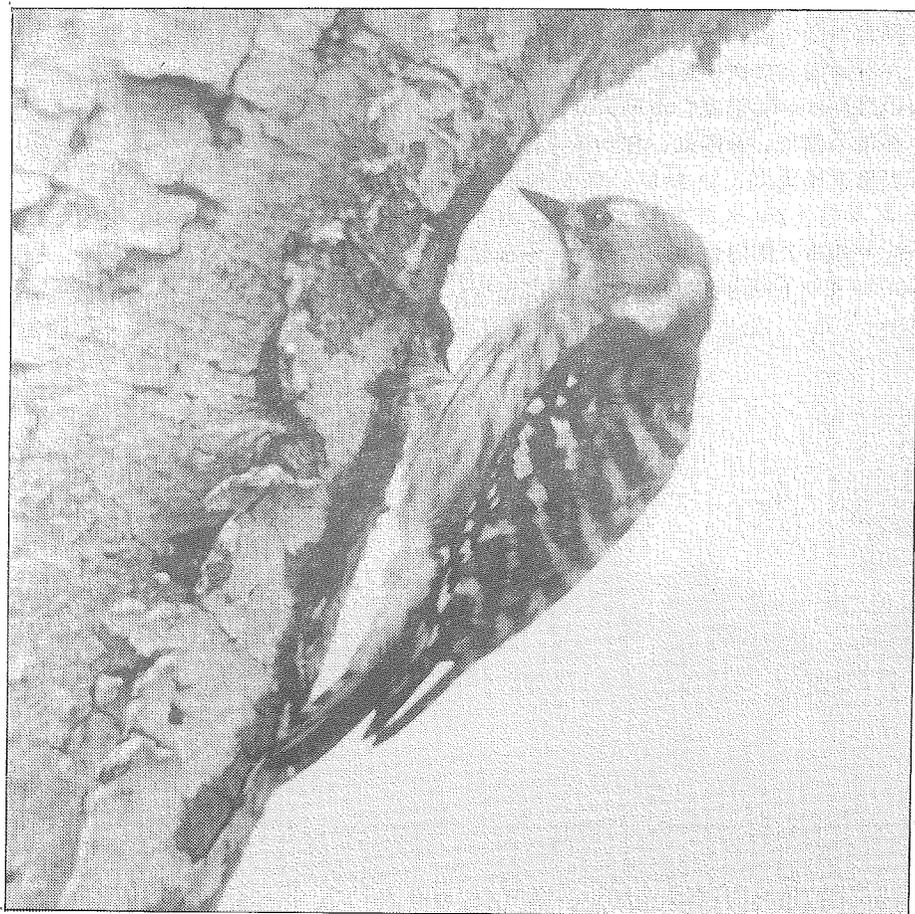


1984・10

第 5 号

しろこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



大麻生にサンクチュアリーを

一度でも大麻生の探鳥会に参加した人は、その自然のすばらしさに、胸が広がるような思いを抱いて帰途につきます。熊谷市内の荒川河川敷にある大麻生の探鳥地は、野鳥の森とよばれている森林をはじめとして、草原・畑・河原・水辺などが一体となった、多様で豊かな自然にめぐまれています。野鳥は、カワセミ・ホオジロ・キビタキなど180種をこえる記録があります。

ゴルフ場建設の計画

この地に、埼玉県による県民ゴルフ場建設の計画が進められています。埼玉県の住宅都市部公園緑地課で説明を受けた結果、私たちの理解した計画内容は次の通りです。

——この計画は、北部総合運動公園という名称の都市公園で、範囲は、押切橋上流から熊谷大橋下流まで（つまり、探鳥地全部を含む）の170ヘクタールを予定。都市計画法で都市公園内の運動施設は、全面積の50パーセント以内と決められているので、

その範囲内に、ゴルフ場・テニスコートなどを計画している。

計画地にすぐれた自然がある事はじゅうぶんに認識している。河原・草原・森林を一体とした河川緑地の自然景観を、できるだけ残し、その中に運動施設を作るという考え方である。野鳥の森は現状のまま残したい。

民間業者が、この地域にゴルフ場を作るという動きもあった。そのままにしては自然が大はげに破壊される危険がある。今は河原以外はすべて私有地であるが、それを全面的に公有地化する事で、できるだけ貴重な自然を保全して行きたいというのがもうひとつの基本的な考え方である。

今後の具体的計画については、日本野鳥の会埼玉県支部を含め、広く県民の意見を聞きたい。——

私たちの提案

私たち支部役員会では、この説明を聞いて、

本部指導部の小河原孝生、金井裕兩名をむかえて、支部と合同の現地調査を経た上で、様々な対応策を検討しました。計画全面反対をはじめとして、多くの対応のしかたが検討の対象となりました。そして、広く社会における野鳥の会の果すべき役割というものから考えをすすめた結果、実現可能な最良のものとして、次の提案をする事となりました。



大麻生では毎月探鳥会を行っている（8月26日）



本部と合同で現地調査（8月20日）

1. 公園予定地のすべての森林・草原・畑・河原等につき、人工の手を入れるのは必要最小限にとどめる事。
2. この公園は、運動ゾーン・農業体験ゾーン・自然とのふれ合いゾーンの3区画で構成する事。
3. 農業体験ゾーンと自然とのふれ合いゾーンの管理運営及び教育の為の施設として、ネイチャーセンターを設置する。
4. 自然とのふれ合いゾーンは、サンクチュアリとして整備して、常駐指導者（レンジャー）を置き、ボランティア組織による管理と自然観察の指導を行う。

これらの提案などを記した提案書は、9月17日、県知事あてに提出しました。

農業体験ゾーンの提案は、畑も大麻生の自然構成の重要な要素のひとつですので、それを残したいという考えから行われたものです。子供達に、土とふれ合う機会を持ってもらう事も、大切な事です。土とふれ合い、収穫のよろこびを知る事は、自然に対する目をひらく大きなきっかけとなります。又、とかく害

のみを言われがちな野鳥と農業の関係についても、正しい理解を探める機会となります。

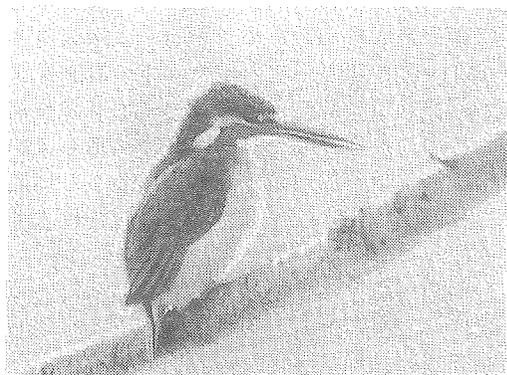
運動ゾーンにふくまれる森林についても、できるだけ下生えを刈り込まないように、という提案もしています。

夢の実現を

しかし、何と言っても、この提案の中心は、サンクチュアリです。大麻生の探鳥地すべてを現状のまま保つ事ができなくても、一方できちんとしたサンクチュアリができれば、私たちの夢がひとつ実現されるのです。

野鳥の森からその前面の草原・河原・水辺を一体としたサンクチュアリが設置され、野鳥をはじめとした自然はじゅうぶんに保護される。その中の観察路にそって、また、何か所かに設けられた観察小屋で、私達はそれを観察する。そして、ネイチャーセンターで多くの人々と語り合う。そんな夢を、私達はえがいています。

今、声を大きくしてさげぼうではありませんか。大麻生にサンクチュアリを。



大麻生ではカワセミも繁殖している

コゲラ（キツツキ科）

スズメ大の日本で一番小さなキツツキで、低山帯に多い留鳥です。木の幹にたてに止り下から上へ虫を探して幹を回りながら登ってゆき、時々ギョーッときしるように鳴きます。

最近、平地の雑木林でもよく見かけるようになりました。林の手入れが悪くなり、枯木

が多くなったためでしょうか。今年6月の大井町公民館の探鳥会では、街路樹に4羽の巣立ちビナが止り、親鳥がエサを運んでいるのが観察され、参加者一同大喜びしました。

（表紙の写真と文・松田 喬）

バードウォッチング 野鳥へのアスロキ

私の読んだ本「ツルはなぜ一本足で眠るのか」

鶴野 一声(大宮市)

いつだったか、ヒマラヤに遠征した日本の登山隊が、インドから中国へ向けて、ヒマラヤの上空を渡って行くソデグロヅルと思われる鳥を目撃し、フィルムに撮っていたのを見たことがあります。人間では、酸素マスクがなければ、一步踏み出すにも非常な努力を必要とするような高度です。一見が弱く見えるツルのたくましさに驚き、また、感動を覚えたものでした。ツルの体のどこに、このような厳しい環境に耐えられる秘密が隠されてい

るのでしょうか。

この本は、そういった疑問に答えて、厳しい自然に、動物たちがどのように適応しているのかを、分かりやすく紹介しています。

全体は、短編の集まりになっていますから、どこからでも好きな所から読め、忙しい方でも十分楽しむことができます。

著者 小原秀雄 林 寿郎 ほか
発行所 柳草思社 1,500円

見沼たんぼに墓地計画

埼玉の原風景が残されている浦和市東部の見沼代用水東縁の国昌寺付近に、浦和市が市営墓地造成計画を進めていることが去る8月13日まで明らかになった。市の計画によると、浦和市大崎、南部領辻の斜面林と見沼たんぼ内の農地2.3ヘクタールを整地して約2千基の墓地造成が予定されているらしい。市では既に地権者(約30人)との折衝に入り、交渉は最終段階に入るところだという。

同地区は県が保全策を練っている中心地に位置し、去る8月3日見沼たんぼを視察した畑知事は、国昌寺周辺の斜面林と代用水について「見沼たんぼの原風景を残したい。そのための研究をして欲しい」と保全を担当課に指示していたとのことである。

市の計画に対して畑知事は、「墓地計画は斜面林の伐採と景観破壊につながる」として、市に計画の変更を指示する考えを明らかにした。一方市側は、「市営墓地については市民の要望が強い。これを考えるとすぐに中止しかねる。県との調整を図りたい」としていた。

その後9月12日の浦和市9月定例議会にお

いて、「市営墓地計画については、見沼たんぼ以外にも場所を検討してみたのか」との一般質問に対して、市環境部長は「同所が最適であった。今後県の意向を聞きながら墓地の造成に努めていきたい」と述べ、市としては現時点で予定地変更の考えのないことを明らかにした。

見沼たんぼは大宮-浦和-川口の市街地の東側に位置する総面積1,260ヘクタールの広大な緑地であり、過去10年余の期間に176種の野鳥が確認され、その内40種が繁殖するなど、県南地域においては有数の野鳥生息地であり、豊かな自然が残されていることを示している。

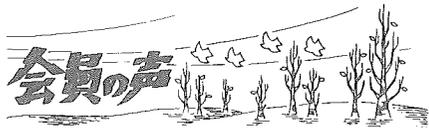
この貴重な緑地に対しては、昨年、県、関係市、学識経験者による「見沼圃保全検討委員会」が設置され、保全方策の検討が進められている。

イラスト風タイトルは
鷹尾正済さんの新作です

野鳥情報

カッコウ ◇6月下旬、浦和市秋ヶ瀬で繁殖（オオヨシキリに託卵）（松田 喬）
クサシギ ◇7月29日正午頃、浦和市三室地区の芝川で。（仲島 浩）◇8月26日、その近くで2羽。（草間和子）
キジバト ◇8月5日午後3時、川島町荒川河川敷（北本市石戸宿対岸）の電線に、若鳥と成鳥の混群60羽位。（楠見邦博他4名）
キバシリ ◇8月12日、三峰頂上の杉林に5～6羽まとまって。（田村照治）
イワツバメ ◇8月16日午後、浦和市三室地区の芝川で10羽以上。（仲島 浩）
コムクドリ ◇8月19日午後2時半、浦和市氷川女体神社付近の電線でムクドリの中にオス1羽とメス2羽以上。（原山 敦）◇8月26日午前6時、同所でオス2羽

メス1羽。（楠見文子、草間和子）
ムナグロ ◇8月20日、大宮市荒川河川敷の健保グラウンドで110羽、8月25日、同所で215羽。（松田 喬）◇8月26日、川越市伊佐沼近くの水田で10羽。（長野博行）
ショウドウツバメ ◇8月26日午後2時半、本庄市の鳥川と利根川の合流点近くで200羽以上。（中島康夫）◇8月28日、熊谷市北西部の田園地帯で600羽位。（鈴木忠雄）
トウネン ◇8月26日午後3時半、本庄市利根川、阪東大橋下流で2羽。（中島康夫）
ヨシゴイ ◇8月26日午後2時頃、川越市伊佐沼で1羽。9月5日午後3時45分、桶川市川田谷の荒川河川敷で1羽。（長野博行）
カルガモ ◇8月29日午前6時半、浦和市白幡沼で。繁殖を終えたものが次々と集合して、この朝、48羽。（海老原美夫）
アマツバメ ◇9月2日午後2時頃、本庄市阪東大橋付近で1羽。（小荷田行男、森本国夫ほか）



秋のシギ・チの先駆けは、8月5日のインシギ2羽でした。繁殖をおえてほっとしたのか穏やかな表情が印象に残りました。8月9日には、コチドリ2羽も出ています。

連日の猛暑です。お体にお気をつけください。

8月11日付

佐々木 勉（大井野鳥公園レンジャー）

こんにちは。埼玉の東のはし八潮市に住む一高校生です。なにかと東部地区、ことに八潮などは見はなされがちですが、ここも捨てたもんじゃありません。都県境を流れる綾瀬川のアシ原には、とくに冬、ノスリやチョウゲンボウ、ユキホオジロなど（生物部の信頼おける筋による）が見られます。しかし、ふだんは草加への通学の途中、オナガやカラヒワ、シラコバトなどキョロキョロ見ながら

通っています。

それから最近「鳥友達がほしい！」とも思っています。八潮の近くでだれか「一緒にバードウォッチングに行こう!!」という方…ひとつよろしく。

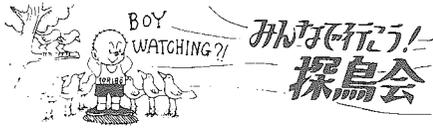
最後になってしまいましたが新支部の発展をおいのりいたします。そして、しらこばとの編集にたずさわっておられる方々頑張って下さい。会員数目標1万人！「県東部」の話題をもっと『しらこばと』に!!

中村 雅和（八潮市）

（ユキホオジロほんと？）

埼玉の自然は減ってきています。そのため、昔はたくさんいた水鳥も、いまでは身近に見ることが出来なくなりました。でも、自然がまるっきりなくなったわけではないのだから、みんなの力で、埼玉を野鳥や、ほかの動物たちの天国にしたいと思います。

福田 守剛（浦和市、中学2年）



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会当日の受付です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以
下=50円です。

10月7日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分 秩父鉄道大麻生駅集合
(大宮7:31始発→熊谷8:10着→秩父鉄
道乗換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩
父鉄道寄居8:22発→大麻生8:40着)12
時ごろ解散。集合時間が少しかわりまし
た。(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

10月10日(水、祭日) 渡良瀬遊水池(栃木県
支部との共催)参加費無料

午前9時10分 東武日光線柳生駅集合
(東武日光線越谷8:21→春日部8:32→
栗橋8:52→柳生9:02着/東北線浦和8:
06→大宮8:13→栗橋8:41着東武日光線乗
換)午後2時頃解散。初の渡良瀬遊水池で
の探鳥会。シギ、チドリ類のほか、ノスリ、
チョウゲンボウ、オオタカなども期待され
ます。(担当・中島康夫)

10月14日(日) 本庄市 阪東大橋

午前9時30分高崎線本庄駅改札前集合
(浦和8:13発→大宮8:19→熊谷9:02→
本庄9:27着/寄居8:22発→熊谷8:49着
乗換/川越7:40発→大宮8:10着乗換)
午後1時頃解散。ショウドウツバメやノビ
タキなど、南へ帰る夏鳥達に別れをつけま
す。(担当・田村照治、石井生高)

10月21日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立
郷土博物館共催)参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:
19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)ま
たは午前9時市立郷土博物館前集合。午
後1時頃解散。(担当・西城戸司)

10月29日(月) 大井野鳥公園平日探鳥会

午前8時赤羽駅京浜東北線ホーム北端
(川口寄り)集合。(前回までと集合場

所がかわりました。)赤羽始発の電車に乗
って品川駅まで行き、品川駅東口からバス
午前9時半ごろ大井野鳥公園着。長い旅を
終えたカモ達が、次々と到着しています。
(担当・佐々木勉)

11月4日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分 秩父鉄道大麻生駅集合
(大宮7:31始発→熊谷8:10着→秩父鉄
道乗換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩
父鉄道寄居8:22発→大麻生8:40着)
12時頃解散。早い冬鳥が楽しみです。
(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

11月11日(日) 桶川市 江川付近

午前9時桶川駅西口集合(浦和8:27
→大宮8:33→桶川8:49着/熊谷8:20
→桶川8:43着)午後2時頃解散。水辺の
貴公子タゲリを探す。運が良ければクリ
も。(担当・長野博行)

11月18日(日) 浦和市 三室地区(浦和
市立郷土博物館共催)参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:
19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)ま
たは午前9時市立郷土博物館前集合。午
後1時頃解散。(担当・西城戸司)

11月25日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

午前9時寄居駅南口集合(大宮7:31始
発→熊谷8:10着→秩父鉄道乗換熊谷8:
19発→寄居8:48着/東武東上線志木7
:38発→川越7:50発→森林公園乗換→
寄居8:45着/八高線東飯能7:37発→寄
居8:39着)午後2時頃解散。雨に降られ
て中止になった、7月の探鳥会のやりな
おし。(担当・田村照治、石井生高)

探鳥会報告

8月19日(日) 浦和市 三室地区

人 53人 天気 快晴 鳥 コジュケイ
 コチドリ タカブシギ イソシギ キジバ
 ト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキ
 レイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシ
 キリ シジュウカラ ホオジロ スズメ コ
 ムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガ
 ラス ハシボソガラス 以上20種 (イソシギ
 とタカブシギが同一視野で見られ、じっ
 くり比較。ツバメ数十羽が上空を乱舞、
 その中にイワツバメも。時節にふさわ
 しく、祭ばやしの練習の音を聞きなが
 らの探鳥会で、雑誌『アニマ』に紹介
 されたこともあり、参加者が多かった)

8月26日(日) 熊谷市 大麻生

人 22人 天気 晴 鳥 ゴイサギ
 ダイサギ コサギ カルガモ トビ コジュ
 ケイ イカルチドリ イソシギ キジバト
 ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ
 セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ム
 クドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
 トガラス 以上21種 (トビが魚をとら
 えるのを割に近くで見られて感激。イ
 ソシギとイカルチドリもたくさん)

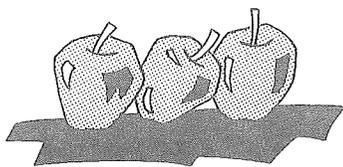
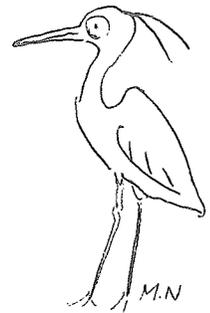
8月27日(月) 大井野鳥公園

人 26人 天気 曇時々小雨 鳥
 ダイサギ コサギ カルガモ バン オオ
 バン シロチドリ メダイチドリ キョウ
 ジョシギ

キアシシギ イソシギ ソリハシシギ ウ
 ミネコ コアジサシ キジバト ツバメ
 ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ
 セッカ カワラヒワ スズメ コムクドリ
 ムクドリ オナガ ハシボソガラス 以
 上25種 (キョウジョシギ5~6羽、番
 外のハッカチョウが2羽、ゆっくり見
 られた。大田区内の小学生が、自転
 車で30分かけて来て、参加してく
 れた)

9月2日(日) 熊谷市 大麻生

人 22人 天気 晴 鳥 ササゴイ
 アマサギ ダイサギ コサギ カルガモ
 トビ コジュケイ イカルチドリ イソ
 シギ キジバト カッコウ カワセミ
 ヒバリ ツバメ キセキレイ セグロセ
 キレイ ヒヨドリ モズ セッカ ホオ
 ジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 オナガ ハシボソガラス ハシボソガ
 ラス 以上26種 (この日、寄居で
 38.4℃と猛烈な暑さ。水辺に近い方
 のコースとした。橋の下の日影から
 の探鳥を主にした訳だ。ここで日な
 たに出る気もせずいた時、元気のある
 人はちょっとあちらに行って見ませ
 んか、と某中年オジさんの声。エライ
 !この一言がこの日の目玉を発見する
 ことになったのだ。ナント!カワセ
 ミ♀の幼鳥と♂の成鳥が護岸ブロッ
 クに止まっていた。あわてて皆を呼
 びに行ったのは言うまでもない。美
 しい姿を心ゆくまで楽しんだ)



シンボルマーク。まだまだ募集中!

一色で書いて、本年中に!!

詳細は、『しらこぼと』8月号を御覧下さい



シギ・チドリ類全国一斉調査実施

前号で参加をよびかけたシギ・チドリ類全国一斉調査、おかげ様で合計36人参加、22か所で調査を実施する事ができました。ありがとうございました。引き続き来年1月15日にはガン・カモ一斉調査、4月29日には、また春のシギ・チドリ類一斉調査が行われる予定です。1人でも多くの方々の御協力をお願いします。

リーダー用の腕章ができました

探鳥会のリーダー用の腕章ができました。どれが生徒か先生かという悩み(?)もこれで解消。財源は、後記匿名氏の寄付をあて、なんと某役員の姉さんの家が刺しゅう屋さんという幸運にもめぐまれ、時価の半値くらいでできました。皆様に深く感謝。

写真やカットなどを送ってください

表紙用のイラストや写真、カット、マンガ、会員の声、野鳥情報など、何でもお待ちしております。この『しらこぼと』は、会員の会員による、会員のための支部報です。気軽にどんどんお送りください。

ご寄付にお礼

次の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございました。自然保護の為に有効に使わせていただきます。(敬称略・50音順)
匿名 50,000円、馬場勇一 2,000円
松田喬 報告書『秋ヶ瀬の野鳥』10冊

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下 静一

『しらこぼと』 1984年10月号(第5号) 頒価100円(会費に含まれます)
発行人 今井 昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉支部
発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブルムローズ岸町107号
電話 0488(32)4062
郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金 316990
印刷所 埼玉印刷株式会社

現在の会員数

9月20日現在で378名です。おかげ様で着実に増えています。



- 8月17日 『しらこぼと』9月号入稿。
- 8月20日 熊谷市大麻生地区現地調査(本部 小河原・金井・支部3名)
- 8月30日 『しらこぼと』9月号発送(ボランティア5名)
- 9月1日 編集会議
- 9月2日 北部総合運動公園(大麻生)に対する提案書について検討会議。
- 9月7日 第5回役員会議。
- 9月11日 大麻生の件など本部と打合せ。
- 9月15日 編集会議。
- 9月17日 大麻生の提案書、県知事に提出。(今月もいろいろといそがしい1か月でした)



新人の編集部員です。「オジン編集部」の声もある中では、一応最年少で、本人も若いつもりなのですが、世間の基準ではどうでしょうか。

『しらこぼと』をさらに楽しいものにしたいのですが、だれか20代のヒトいませんか? ただし、女性なら年齢を問わず大歓迎です。

こんな所に、大きな顔をして書いていますが、本当は今年になって野鳥の会に入った新米なのです。よろしく!(森本国夫)

(無断転載を禁じます)